

第 1 回洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議

議事要旨

日 時	平成 27 年 8 月 31 日（月） 午前 10 時から正午まで
会 場	洲本市文化体育館 1 階 会議室
出 席 者	以下の通り（本部員（14 名）、特別本部員（11 名））
本 部 長	竹内 通弘
副 本 部 長	濱田 育孝、森屋 康弘
本 部 員	河上 和慶、宮口 美範、上崎 勝規、河合 隆弘、清水 正隆 赤松 和彦、川端 一司、太田 隆史、山口 未江子、森野邊 省輔 藤井 先
特別本部員	木下 紘一、檜本 文昭、石田 正、尾原 勉（代理者 藤森 泰宏） 竹田 雅光、嶋田 武司、勢戸 堅祐、木村 正夫、三好 正文 太田 益生、村上 由美子
欠 席 者	福本 賢太（1 名）
事 務 局	寺岡 朗裕、西原 健二、田中 宏樹、齋藤 友里絵
業務支援者	株式会社ぎょうせい 山野 充寛、成田 久恵、野村 昭

【次 第】

1. 開会
2. 本部長（竹内市長）挨拶
3. 出席者紹介
4. 報告事項
 - 報告 1 地方創生（地域創生）の概要について
 - 報告 2 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議について
 - 報告 3 「洲本市の地域創生」に関するアンケート調査について
5. 協議事項
 - 提案 1 「洲本市まち・ひと・しごと地域創生総合戦略」の骨子案について
 - ① 将来の人口展望（平成 27 年～72 年まで）
 - ② 5 年間の戦略（平成 27 年度～31 年度まで）
6. その他
7. 副本部長（濱田副市長）挨拶
8. 閉会

【配付資料】

- 資料1 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議の概要
- 資料2 「洲本市まち・ひと・しごと地域創生総合戦略」の策定方針
- 資料3-1 「洲本市の地域創生」に関するアンケート調査（中・高校生用）
- 資料3-2 「洲本市の地域創生」に関するアンケート調査（一般用）
- 資料4 「地域創生」に関する中学生・高校生アンケート調査の集計結果
- 資料5 洲本市の人口動向分析
- 資料6 「洲本市人口ビジョン」の策定に向けた将来人口シミュレーション
- 資料7 「洲本市まち・ひと・しごと地域創生総合戦略」骨子案
- 参考1 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部設置要綱
- 参考2 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部構成員一覧
- 参考3 国のまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」
- 参考4 国と地方における人口ビジョン・総合戦略の構成（イメージ）
- 参考5 兵庫県地域創生戦略（2015～2019年度）素案の概要

1. 開会

- 開会
- 事務局（寺岡参事挨拶）

2. 本部長（竹内市長）挨拶

- 洲本市は、緩やかな人口減少が続いており、特に最近は少し減少幅が大きくなっている。
- 「まち」は「ひと」で成り立っており、「まちづくり」とは「ひとづくり」であると考えており、その大切な人が減少すれば、まちの活気も失われてしまう。
- 私たちのふるさと「洲本」の自慢である豊かな自然環境、かつて御食国と呼ばれたおいしい食材、歴史と文化、田舎でありながらも神戸や大阪へのアクセスに恵まれている立地条件の良さがすぐに思い浮かぶが、まだ十分に掘り起こされていない魅力を「魅力あるサービス」「購入したい商品」「訪れてみたいまち」として磨き上げ、大いにPRしてまいりたい。
- この後、事務局からさまざまな説明があると思うが、忌憚のないご意見・ご提案をいただきたい。

3. 出席者紹介

4. 報告事項

- 報告1 地方創生（地域創生）の概要について
 - 「参考3」に基づき、事務局より説明。
- 報告2 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議について
 - 「資料2」に基づき、事務局より説明。

報告3 「洲本市の地域創生」に関するアンケート調査について

○「資料3-1」「資料3-2」「資料4」に基づき、事務局より説明。

5. 協議事項

提案1 「洲本市まち・ひと・しごと地域創生総合戦略」の骨子案について

- ① 将来の人口展望（平成27年～72年まで）
- ② 5年間の戦略（平成27年度～31年度まで）

○「資料5」「資料6」「資料7」に基づき、事務局より説明。

○説明後に特別本部員より意見、質問、専門的な立場から取り組んでいる内容、さらには、もっとこうすれば人口減少に歯止めをかけられたり、地域経済の活性化に寄与することが期待できるのではないかというようなことについての意見を受ける。

(特別本部員)

○一般的に、淡路島全体で働く場所がない、働く機会がないから島を出るというイメージがあるが、島外の事業者や既存の島内の事業者からは、働き手がないから淡路島にいても事業が成り立たないということが言われている。事業者としても、人の確保ができないというのが現実であり、人が足りないということ認識してもらいたい。毎年、新入社員を採用しているが、島内出身者が2割程度しかいないという現実がある。高卒の方も四国や神戸などから採用しており、島内の新卒は少ない。将来2万人ぐらいになるという推計の中で、洲本市へ移住や人口を増やすということが資料に記載されているが、淡路全体の人口をどう増やすということがテーマになるであろう。洲本市だけの問題とするのは違和感がある。

○アンケート結果を非常に興味深くとらえている。現在は高卒より大卒の方が増えているが、観光業界をもう少しご理解していただきたい。今、外国人が増えており、個人客（FIT（エフ・アイ・ティー：Foreign Independent Travel））が非常に増えてきており、いろんな言葉を専門的に話せるスタッフが必要となってきた。そのため、そういう教育やそういう人材が必要になってきている中で、そこに対応することで、今後の人口も増やせるのではないか。あるいは興味のある人材を増やせるのではないかと思った。そうすることで、淡路島の人口を増やし、洲本市の人口を増やし、県外から人口を引っ張ってくるのが可能となるのではないか。

○兵庫県の人口が、30年後に16.5%減の467万になるということで、特に但馬と丹波と淡路地区が30%減少するということが、労働力人口が厳しくなる。農業人口もかなり減ってきており、平均年齢も69.2歳となって、全国平均（66.7歳）よりも高いため、今後ますますタイヤが増えてくる。

J A独自の事業も実施しているが、今後労働力人口が減少した時に、この事業が維持できるかどうか課題となってきた。今の人口の中で、事業をどう維持していくか、また今後どうするかを検討しているのが現状である。J Aでも地元採用がだんだん少なくなってきた。

○50年後に人口が半減するという事になると、洲本市だけでどうこうするという事ではなく、県民局では5つのポイントで施策を進めていきたいと考えている。島全体で人口が増えていくことを考えなければいけない。淡路島に多くの人に来てもらう、愛着を持ってもらうためには、意識づけ、ふるさと学習を進めていきたい。交流人口の拡大、観光のために（淡路島名誉大使を務める落語家の）桂文枝さんをお願いし、PRしていただいている。また、産業系では、基幹であり伝統のある産業の活性化を進めていきたいということ掲げている。

私からの提案として、1つ目は、今回の骨子案に創業支援が入っているが、創業支援は創業する際に支援するということが多いが、創業した後も支援の対象にしていただきたい。できれば、一定の期間、5年間ぐらいは支援することを考えてほしい。2つ目は、洲本の中心市街地が元気になるには、商店街に賑わいが戻る事、人の行き来が増えることが大事である。商店だけでなく、オフィスを誘致できるよう念頭においていただきたい。3つ目は、農業の新規就農希望者のサポートについては、反対側にあたる後継者がいない田んぼの供給側になっている農家の支援を考えてほしい。そういう需要をシステムティックに把握できるようなことを考えてもらいたい。

○金融面の支援は今までどおり支援させていただきたいし、さらに、今後、こうした他市の情報なども提供させていただきたい。併せて、島内の事業者さんの販路の拡大についてもお手伝いをさせていただきたい。弊社の支店は50人ほどの従業員のうち40人が女性であり、2020年に向けて女性管理職を20%にしようという目標を掲げている。こういう戦略を作る上でも、女性の意見は重要となる。当店の従業員の中で、最近、結婚、出産して南あわじ市に転居した人がいるが、その理由を聞くと、子育てするのなら南あわじ市がいいと言っていた。各市により、支援のあり方は異なると思うが、そういうことも重要となると感じた。

また、地元に住んでいる人によると、テレビや雑誌などのメディアを通して、いろいろな紹介がなされており、観光客が増えていると聞いているが、もともと淡路島は、関西の都市部から見て、近くて便利な地域なので、そういった媒体をもっと活用して、交流人口を増やしていくことが大切だと思う。そういうお手伝いもしていきたい。

○人口のグラフが平成22年までとなっているが、できれば直近のデータを入れて修正してほしい。当行でも専門の部署を設け、専門家を配置し、協力できる体制を作っている。ご指示いただきたい。淡路島の人口減は把握している。今、島内に20店舗あるが、人口減により採算の合わない支店が出てくる。今後、行政と力を合わせて、淡路島が前向きで活発な島になるように協力していきたい。

○労働力人口が減ることをどうするかは、金融機関として支援していかなければならない。地域経済に関与するような形で協力していきたい。ところで、最近、新聞・雑誌で非常に脚光を浴びている富士市産業支援センターの小出（宗昭）さんは立派な方で、多くの成功事例をお持ちなので、一度、このメンバーで話を聞くのもいいと思う。

○洲本管内の求人倍率は、1.27倍で兵庫県の0.98倍に比べ高い。しかし、景気の回復で求職者が減少しており、高校生の就職希望者は2割であるが、求人が多く、今年度の求人倍率は3倍弱で引く手あまたである。大学進学等で島外へ出た人をどうやって呼び戻すかが課題である。本日の机上に配付している面接会のチラシであるが、Uターン、Iターンを呼び戻すためのもので、これを島外にいる出身者にどう発信していくか、市の魅力、情報を発信する方法を市の新規事業として検討してほしい。ぜひ、こういったチラシを自治会の回覧などにらせていただくことも検討いただきたい。

○この戦略会議のメンバーであるが、今回の施策に若い人の意見も取り込んでいくことが重要である。もっと若い人も入れてほしい。これは専門部会で協議いただくことになると思うが、例えば、移住促進も、どの年代の人に来てもらいたいのか、都会から田舎移住を希望する年配の人に来てもらおうとすると、女性は田舎のしがらみがいやで来たくないと思う人が多いので、女性が暮らしやすいまちづくりも考えていかなければならない。

交流人口を増やして観光立島をめざすならば、広報・情報発信のあり方は重要であり、市には広報専門の部署がないことも問題である。広報専門員がいてもいいと思う。島全体で広報をどうするか、考えていただきたい。

359万人が訪れた「花博」の閉幕記事を取り上げたのは、本紙を含め、2紙しかなかった。そういうことも含め、情報発信のあり方について考える必要があるのではないだろうか。

○今回の「地域創生」のような大きな取り組みに対しては、実際に住んでいる人や働いている市民の生の意見をもっと取り込んでほしい。これから行政内部の専門部会で議論いただく際も、行政目線だけでなく、住民の中に入っていった方がいいと思う。住民が何を求めているのかを知る必要がある。何年か前の現状を記した古いデータでは、対応は難しい。最新のデータや他地区の成功事例も参考に工夫していただきたい。

○子どもたちには、もっと「子供会」の活動に参加してほしい。そのためには、学校にチラシを配るなどの取り組みも必要になると思う。

洲本市は、自分が子どもだった時に比べ、「楽しいまち」になっていると感じている。今の子どもたちが洲本市で元気に育つ「楽しいまち」になるような取り組みを進めてほしい。

○これまでの発言の中で、観光客は増えているが、情報発信がまだ十分ではないとの指摘があったが、限られた予算や人員の中でできることを行っている。民間団体だけでなく、行政とも協力しながら、さらに情報発信に努めていく必要があると感じている。

(本部長)

○人口減少は日本全体の問題であり、仕方がない面もあるが、ずっと減少し続けていくことは問題である。これから、みなさんで力を合わせて、東京に負けない魅力のあるまちにしていきたい。

6. その他

○事務局

さきほど発言された内容以外で、ご意見ご提案があれば、9月7日（月）必着をめぐりに別紙黄色の用紙に記載の上、提出していただきたい。

次回の第2回会議は、9月28日（月）午前10時から開催。会場は今回と同じ。ぜひご出席下さい。

第3回は、10月下旬開催予定。2回目と3回目の間に、住民の意見を広くいただくため、パブリックコメントを実施する予定。詳細は次回説明。

7. 副本部長（濱田副市長）挨拶

○長時間、お疲れさまでした。また、貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。

本日は第1回ということであり、事務局からさまざまな情報を提供させていただいたが、詳細は、これから詰めていきたい。関連資料も順次、提供してまいりたい。

○「地域創生」は、人口の減少を前提とした計画である。これまで行政が行ってきた計画づくりは、人口が増えることを前提に住民や地域を元気にしていくことを考えてきた。人口が減少する中での計画づくりは、われわれ職員にとっても初めての取り組みであり、少し戸惑っているところがある。

○これからも、みなさんからいろいろな意見を伺い、人口減少に歯止めをかける取り組みを、また、人口が減った場合のことも視野に入れつつ、対応について、ともに考えてまいりたい。

○今後、この本部会議を2回開催する予定なので、引き続き、協力をお願いしたい。

8. 閉会

以上